

【表題】 航空大学校 A36 型機の離着陸訓練における安全な最小間隔の検討に関する  
調査報告

【著者】 黒川 宏樹

【発表】 航空大学校研究報告 R-69

【時期】 2016年12月

【概要】

航空大学校では、宮崎空港、帯広空港、仙台空港を拠点としてエアライン機等が輻輳する環境下において離着陸訓練を行っている。航空交通管制圏が指定されている飛行場においては、飛行場管制所の管制官は、管制許可、管制指示、交通情報を発出することにより、またパイロットはこれらの許可、指示に従うと同時に、交通情報を活用して、航空機間の安全な間隔を保っている。

航空交通量の増大していく中で効率的に訓練を継続するには、安全のために必要とされる最低の間隔を把握し、その間隔を保つことができる航空機の行動の時機、時間、距離について、管制官及びパイロットが共通の認識を持つておくことが有効であると考え。この認識を深めるため、宮崎空港における当校の訓練機とエアライン機の滑走路占有時間についての実態を調査し、管制官及びパイロットが利用できる間隔設定の目安を求め、安全でより効率的な訓練の一助となるよう本報告書を作成した。